

ビブリオバトル（知的書評合戦）

中学生・高校生による ビブリオバトル （知的書評合戦）を実施して

全国で盛り上がるビブリオバトルを「図書館と県民のつどい」で開催しました。

「人を通して本を知る 本を通して人を知る」というビブリオバトルは、まさに「図書館と県民のつどい」にぴったりの読書活動です。

1 ビブリオバトルとは？

「ビブリオバトル」とは、バトラーと呼ばれる発表者がおすすめの本の紹介し合う、コミュニケーションゲームです。1人5分の制限時間でおすすめの本を紹介し、観覧者が「どの本が一番読みたくなったか」を基準に投票を行い、最多票を集めた本を「チャンプ本」とする対戦形式の書評会です。本を介したコミュニケーションの場として注目を集めています。

ビブリオバトルは2007年に谷口忠大氏（現立命館大学情報理工学部准教授）によつてはじめられました。新しい形の書評会として図書館や学校で広まり、読書推進イベントとしても注目を集めています。

埼玉県でも、埼玉県教育委員会主催「彩の国 高校生ビブリオバトル」が2014年から開催されるなど、広がりをを見せています。「図書館と県民のつどい」でも2014年から開催し、今回は3回目となります。

2 ビブリオバトルの様子

今回のバトラーは、県内の中学生・高校生にお願いしました。

中学生は公募したところ、7名の応募がありました。11月14日に予選会を実施し、3

名が「図書館と県民のつどいビブリオバトル」の出場者に選ばれました。

また、高校生のバトラーは「彩の国 高校生ビブリオバトル2016」で上位入賞した高校生3名です。

当日は公式ルールにのっとり、発表5分、質疑2分でビブリオバトルを行いました。

バトラーと紹介された本は下記のとおりです。

南 和花さん（さいたま市立大宮東中学校）
『女王はかえらない』

降田 天 著（宝島社）

吉岡 大輝さん（三郷市立早稲田中学校）
『名のないシシャ』

山田 悠介 著（角川書店）

森山 稜子さん（春日部共栄中学校）
『未来イソップ』

星 新一 著（新潮文庫）

高橋 瑞樹さん（県立越ヶ谷高等学校）
『世界から猫が消えたなら』

川村 元気 著（マガジンハウス）

大貫 弘輝さん（県立松山高等学校）
『空想科学読本』

柳田 理科雄 著（メディアファクトリー）

渡邊 悠加さん（さいたま市立浦和高等学校）
『何者』

朝井 リョウ 著（新潮文庫）

150人の観覧者が見守る中、バトラーは工夫を凝らして、本の魅力を熱く伝えました。

質問タイムでは、観覧者がバトラーと活発に意見を交わして理解を深めました。

観覧者全員の投票の結果、チャンプ本には、南 和花さんが紹介した『女王はかえらない』が選ばれました。

当日、ビブリオバトルを観戦された方からは、「中・高校生が内容をしっかり読み込んでい

ること、質問に臨機応変に答えられることにびっくりしました。」「どのバトルも熱く紹介してくれて、紹介の仕方も優れていたのので、本を読みたくなりました。」「中学生3人ともとてもしっかりと発表していて驚きました。」「読書への誘いとして魅力的な取り組みだと感じました。」等の感想を数多くいただきました。

当日の準備・運営等のご指導をいただきました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

